



園通信 令和8年8月1日 第5号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

先日の大きな地震で被害はありませんでしたか。ご親戚等で被災され方もいらっしゃるかと思います。謹んでお見舞い申し上げます。

7月11日(土)は、いちごぐみとあんずぐみ、きういぐみの保育参観にご参加くださり誠にありがとうございました。後日、心温まる感想をいただいています。すべて紹介したいのですが、紙面の都合もありますので、抜粋してご紹介したいと思います。

- ☆ 保育参観、ありがとうございました。園での様子を知ることができ、嬉しかったです。
- ☆ 絵本の読み聞かせと一緒に声を出したり、手あそびに興味を持ったりしている姿を見て、いつも楽しんでるのだなと思いました。
- ☆ クラスの雰囲気も実際に見れて、いい時間を過ごせました♪
- ☆ 集団生活をうまくやれてるか心配でしたが、2月の生活発表会のときより成長を感じられて、心強かったです。園生活の様子を聞き、家での関わり方の参考にもなりました。
- ☆ 先生たちの子どもたちへの関わり方を見て安心しました。引き続きよろしくお願いします。

その他、たくさんのご感想をありがとうございました。普段の園での様子で成長している姿を見ることによってご安心していただくことができて良かったです。また、保育教諭の関わりから家庭での関わり方のヒントを得られたというご意見もたくさん寄せられ、相互に実りあるものだったと思います。皆様のお言葉を励みに、さらに精進してまいりたいと思います。

さて、8月の大きなめあては「きらきらと」です。保育参観でご覧になられたように、子どもは夢中になっているときはきらきらと輝いて見えるものです。いつも一人一人のこどもが輝いて見えるように、職員一同こどもにまっすぐ関わっていこうと思います。

< 不審者対応訓練 >

7月22日(水)、不審者対応の特別訓練をしました。当園は、ALSOKと契約しているので、いざというときには、すぐにガードマンが駆けつけてくれます。今回の訓練にもガードマンがすぐに到着し、園児たちを安心させてくれました。

訓練の後、ガードマンの「隊長」の短い講和がありました。知らない人について「いか」ない、知らない人の車に「の」らない、「お」おきい声で叫ぶ、「す」ぐに逃げる、家の人や大人に「し」らせる、という、「いかのおすし」を学びました。「スーパーで知らない人に “好きなお菓子あげるよー、ついておいでー” って言われてもついていけないでね」と、隊長に教えてもらいました。

その後の質疑応答では、ガードマン専用のスマホや警棒を見せてもらいました。逆に「大きくなったら何になりたいのかな」と尋ねられた男の子は、「けいさつかんになる」と答え、ちょっぴり寂しそうな隊長でした。



隊長の登場！



“ベストには何が入っているでしょう？” “警棒、持ってみる？” “これは特別なスマホだよ。” “そのスマホでけいさつにでんわするん？”

< 保育ボランティアを受け入れました >

7月29日(水)、大分市が令和8年度から取り組み始めた、中学生及び高校生を対象とした「夏休み保育のおしごと体験」が当園で実施され、4名の中学生を受け入れました。当日は、きういぐみとすももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみのクラスに1名ずつ受け入れ、保育体験をしていただきました。

どのクラスにおいても園児が生徒さんに群がっていました。午前中は、園児と水のかけあいこをして盛りあがっていました。お帰りのときは、生徒さんがそれぞれの思いで選んだ絵本を読み語り、園児はその世界に引き込まれていました。とても疲れた様子の4人でしたが、表情はとても充実感で溢れていました。

また機会があれば、受け入れたいと思います。



輪っかくぐりのお手伝い♪



水鉄砲をかけ合っています



“きもちいいね～！”



絵本を読み語っています



< 8月の予定 >

- 8月 3日(月) 身体計測週間(～7日、すもも・かりん・れもんぐみ)
保護者保育体験(～7日)
- 8月 4日(火) ピザクッキング(れもんぐみ)
- 8月 7日(金) とうもろこしの皮むき(あんず)
- 8月10日(月) 身体計測週間(～14日、いちご・あんず・きういぐみ)
- 8月13日(木) 避難訓練(地震から火災想定、8時40分)
- 8月15日(土) お弁当日🍱
- 8月25日(火) 誕生会、健康診断

< 大分七夕まつりについて >

大分七夕まつりは、2日目に「おおいたチキリンばやし市民総踊り」があり、大分市保育協会が参加します。今年は当園職員も6名踊り隊として参加します。応援をよろしくお願いします。



コラム 8 2 : 子どもが望む大人の世界⑩ ～17の子どもの願い～

キッドワールド総合園長

牧野 桂一

前回までに紹介しきれなかった⑩番目にあたる「子どもの名前をいっぱい呼んであげる」の項目以下について、今回も同じように紹介していきたいと思います。

最初に、子育てにおける「子どもの名前を呼ぶ」ということについて考えていきます。子育ての中で「子どもの名前を呼んであげる」ということは、ここで起こる相互のコミュニケーションから子どもの心を育てることや家族関係、社会性を育む上で非常に深い教育的・心理的な意味が生まれてきます。そこで、ここでは子育てにおいて「子どもの名前を呼んであげる」という何気ない行為から生まれてくる具体的な意味について考えていくことにします。

まず一番目の意味としては、「子どもの名前を呼んであげる」と子どもの中に自己肯定感と「愛されている」という実感が育ってきます。名前は、子どもが生まれて初めてもらう「人生最初の大変な贈り物」であり、その子自身のアイデンティティそのものということができます。

親が愛情を込めて自分の名前を呼んでくれることで、子どもは「自分は大切な存在なのだ」「このままの自分で全てが受け入れられているのだ」という深い安心感と信頼感を得ることができます。ここで生まれる自己肯定感と自尊感情は、将来いろいろな困難に直面したときに立ち直る力の土台となります。失敗をしたときに諦めずにもう一度挑戦する力を養います。

二番目に、「子どもの名前を呼んであげる」と社会性と人間関係、コミュニケーションの基礎を身につけることができます。名前を呼ばれてパッと顔を向け、目と目を合わせてアイコンタクトを取るというやり取りは、すべての人間関係の原点になります。「呼ばれたら返事をする」「相手の方を見る」という双方向のコミュニケーションの基礎が、毎日の呼びかけを通して自然と体に染み込みます。他の人の存在を意識し、円滑な関わりを持つための最初のトレーニングとなるのです。



三番目に、「子どもの名前を呼んであげる」と主体性と自主性が育ち「自分」という自我の意識が芽生えます。「〇〇ちゃん、どうしたい?」と、名前を添えて語りかけられることで、「僕は(私は)、林檎を食べたい」と子どもは、主語を自分として捉えて話すことができるようになるのです。集団の中の一人ではなく、「自分という独立した個人の意見や意思を尊重されている」と感じることで、自立心や自律心、主体性が育ちます。そして、自分の行動に対して責任を持つ感覚の芽生えにもつながるのです。

四番目に、「子どもの名前を呼んであげる」と情緒の安定を育て心のセーフティネットを作ることになります。不安なときや寂しいとき、あるいは叱られたあとに自分の名前を優しく呼んでもらうことは、子どもの心をクールダウンさせる大きな力になり、癒しにもなります。言葉の持つ温かさがダイレクトに子どもに伝わり、「いつでも、どこでも自分を見守ってくれている人がいる」という心のセーフティネットをしっかりと自覚し、親子の愛着の絆を強固にします。

一方で、「子どもの名前をいっぱい呼んであげる」ことが、子どもの脳にどのような影響を与えているかということを考えると、名前を呼んであげることは、単なるコミュニケーションを超えて、子どもの脳の成長や神経回路の発達に科学的なとても良い影響を与えていることが分かります。

脳科学や発達心理学の視点から見ると、名前を呼ばれるという経験は以下のような影響を脳にもたらします。



一番目として、「自分」を認識する脳の領域(自己ネットワーク)を育てることになります。脳には、自分自身に関する情報や感情を処理する「デフォルト・モード・ネットワーク(DMN)」と呼ばれる神経回路の基盤があります。赤ちゃんや幼児期から自分の名前を繰り返し耳にすることで、脳は「この音(自分の名前)が聞こえたときは、自分に注意を向け、自分の感覚を処理するんだ」と学習します。これにより、「自分という存在(自己意識)」を認識する脳の働きがスムーズになり、他者と自分を区別する認知の土台が作られるのです。

二番目として、言語を司る脳の領域(ウェルニッケ野・ブローカ野)への刺激が働きます。親が子どもの名前を呼んで話しかけると、子どもの脳では、聴覚を司る領域や言語を理解する領域(ウェルニッケ野)、言葉を発する準備をする領域(ブローカ野)がフル回転しています。「名前+

肯定的な言葉(例:「〇〇ちゃん、大好き」「〇〇ちゃん、見て」)」というセットで大量の気持ちの良い音声シャワーを浴びることで、言葉の聞き取り能力や語彙力を司るシナプス(神経回路の接続部)が密に発達します。

三番目として、「オキシトシン」が分泌され、脳のストレス耐性が高まります。親に優しく名前を呼ばれると、子どもの脳内では愛情ホルモンと呼ばれる「オキシトシン」が分泌されやすくなります。オキシトシンには、脳の恐怖や不安を感じる大脳辺縁系(扁桃体など)の過剰な興奮を鎮め、ストレスフルな状況に対する耐性を高める働きがあります。安心感に満たされた脳は、新しいことを学んだり、探索行動を起こしたりするための「安心の基地」を手に入れ、知的・情緒的な学習効率も上がります。

四番目として、脳の前頭前野を刺激し、注意力やコントロール力を高めます。

名前に反応してパッと顔を上げ、親の目を見るという一連の行動は、脳の「司令塔」である前頭前野を強く刺激します。前頭前野は、注意力、衝動のコントロール、感情の調整などを担う重要な部位です。「呼ばれたら注意を切り替えて反応する」という日常の小さな反復が、この前頭前野の神経回路を鍛え、集中力や社会性の高い脳を育てます。

このように、名前をたくさん呼んであげることは、子どもの脳に「自分は安全な場所にいる、大切にされている」という最良の栄養を与え、知性と情緒の健やかな発達を支える強力なエネルギー源となるのです。

名前を呼ぶことは、お金も特別な教材もない、最もシンプルでありながら最も強力な「愛情のスキンシップ」です。日常の中で意識して名前を呼んであげることは、子どもの健やかな心身の成長にとって計り知れない価値を持っています。

阿彌陀如来は「南無阿彌陀仏」と自分の名前を呼んだ人を一人残らずたすける、必ずたすけると言っています。仏様も自分の名前を呼ばれることが一番嬉しいと言っているのです。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんので、次に回させていただきます。次回は最後の ⑩人として美しい親になるということについて紹介していきたいと思います。



誰でも、大好きな人に名前を呼ばれると嬉しいものですね。
このコラムを読んで「きみのなまえ」という歌を思い出しました。
「わあ、素敵な名前」って言われたくなります。たくさんみんなの名前を呼び合って、みんなで幸せな気持ちになりたいと思います。